

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	横松 和義	生徒指導主事	渡邊 良平
取組事例名	『児童の主体性・自主性を育む縦割り班活動』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
本校の児童は、落ち着いて学習に取り組むが、主体性に欠け、表現力が弱い傾向がある。そのため、これまで過去 3 年間、児童の主体性や表現力を育てる児童会活動や学校行事に取り組んできた。今年度は、単発的な活動に終わらず、継続的な取組になるよう計画し、年間を通じて縦割り班を軸とした活動を組織していく。	まず、6 年生が最高学年としての自覚と誇りを持ち、主体的に活動に取り組む姿を目指す。委員会活動も児童会活動も、6 年生が主体的に取り組めるように組織を作り、リーダーを育てる。 次に、縦割り班（1～6 年）を組織し、自主的活動を通して仲を深め、縦のつながりを作ると共に協力し合う集団づくりを目指す。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○6 学年集会…毎週開催した。学校のリーダーとして自分の果たす役割を自覚する時間として設定している。 ○縦割り遠足…5 月、1 年生を迎える会と併せて学校全体で遠足を企画した。6 年生の主体性が育った。 ○縦割り掃除…本校では縦割り班での掃除活動を実施している。高学年が低学年に掃除のやり方を教えることで、つながりが育っている。 ○縦割り班遊び…毎月 1 回水曜日の昼休憩を縦割り班遊びの日に設定した。6 年生が中心になって班の全員が楽しめる遊びを企画し、実施した。6 年生は遊びの企画書を作成し、準備物や流れ、ルールなどを提案して臨んだが、初回はうまくいかなかった。わかりやすく説明する力、時間配分などが足りなかったと反省があった。この反省を生かして 2 回目に取り組んだ。以後、毎月実施している。 ○表現集会…表現力に課題がある本校では、児童集会の中で表現の場を設けている。全校の前で学年発表する時間や委員会の発表、イベント等を設け、修学旅行や宿泊学習などの成果を伝えたり、学習発表会で頑張ってきたことを伝えたりした。 ○拡大縦割り班遊び…児童会が主催して実施した。いつもは 25 分間の縦割り班遊びを 45 分間に拡大し、縦割り班で楽しい時間を過ごした。6 年生は 5 年生に進め方を伝え、次年度に引き継ぐ準備をしている。 ○6 年生を送る会…5 年生が中心になり、これまでの主体的・自主的な活動を継承し、6 年生を送る会を企画する。	児童にめあてをもたせるために ・6 年生は全員がリーダーを経験できるように計画した。 ・児童会が代表委員会を開催し、生活目標の推進や学校全体の問題点を周知するなど、6 年生のリーダーシップを担った。 ・年間計画を立て、児童と共有した。 児童の意欲を高めるために ・縦割り班遊びでは、企画書を作成し、職員が添削した。6 年生は 1 回目の失敗を経験し、どうすればみんなが楽しめるか工夫を凝らすようになった。 ・児童会と協働して、拡大縦割り班遊びを実施できた。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・学年集会では、成果と課題を児童の言葉で表現させるようにした。教師側の成果や課題とは差があったが、児童の思いを大切に、定期的に実施する縦割り班遊びを盛り上げるように活動を価値付けた。 ・年間を通して、6 年生には学校のリーダーとしてあるべき姿を伝え続けた。



3 成果と課題

○6 年生に最高学年としての自覚と誇りが浸透し、進んでリーダー的な役割を担おうとする児童が増えた。また、縦割り班遊びを楽しんでいる児童も増えた。アンケートでは肯定的評価の割合が 4～7 月は 85.5%、9～12 月は 86.1%となっている。児童の姿を見ていると、主体的に行動できないと思っていたのは、主体的に動ける段取りを行っていなかったことが原因であり、表現力が乏しいと思っていたのは、表現したいと思えなかったからではないかと感じた。教師が主体的に活動できる道筋を明確に定めて取組を進め、自分らしさを出せる場を準備すれば、児童は進んで取り組めると感じる。 △6 年生の主体性や自主性を育てることはできたが、1～5 年生にも学年に応じた同様の力を育てたい。今年度、学校全体の取組として縦割り班遊びが定着したので、次年度は昨年度実施した各学級の出し物を集めたイベント活動を復活させてもいいと感じる。
--